



発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
神奈川県保育会

発行人
富田 英雄

題字
故 内山岩太郎 筆



第41回 全国保育研究大会特集号



楽しかった中田先生のトーク

会長あいさつ

神奈川県保育会会長 富田 英雄



七合目まで白い帽子をかぶって、まっ青な空にくっきりと姿を現した富士山は、大会の成功を予感し祝福してくれているように思えました。その日の富士山は、小田原に住む人でもめったに見られないという程の美しさで、富士山を見る機会があまりない地方からの参加者は、興奮気味にしきりにシャッターを押していたのが印象的でした。とりわけ、玄関付近の係員の先生方は、シャッターサービ

スに大わらわでした。七合目まで白い帽子をかぶって、まっ青な空にくっきりと姿を現した富士山は、大会の成功を予感し祝福してくれているように思えました。その日の富士山は、小田原に住む人でもめったに見られないという程の美しさで、富士山を見る機会があまりない地方からの参加者は、興奮気味にしきりにシャッターを押していたのが印象的でした。とりわけ、玄関付近の係員の先生方は、シャッターサービ

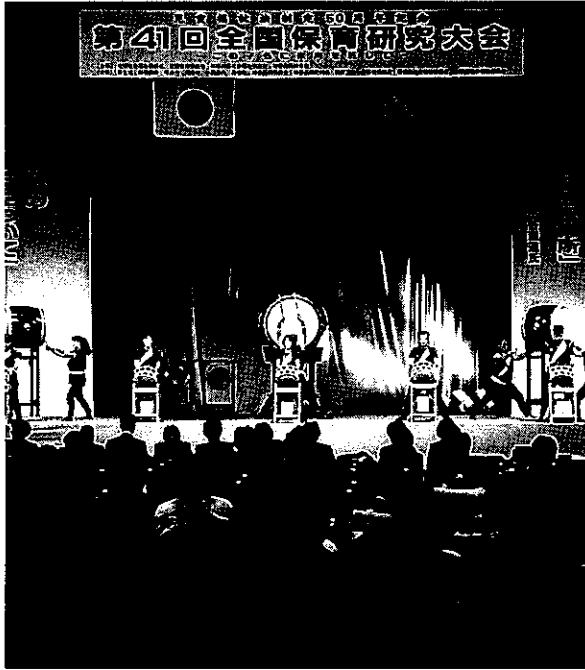
舎のホテルに向かうバスの中から見た、暮れなずむ西の空にうす紫色のシルエットとあって浮ぶ富士山は、とても女性的でゾッとする程の美しさでした。

美しい富士山で晴天を約束されたと思っていた二日目は雨でした。若い園長や副園長の先生方は臨時の輸送係を買って出て、各分科会会場へのピストン輸送に大活躍してくれ、参加者から大変喜ばれました。雨のお蔭もあって各分科会とも熱のこもった議論が展開され、充実した一日となりました。雨足が強まった午後、ホテルや旅館の組合のマイクロボスや、小田原のタクシーをチャーターして分科会からの帰りの足を確保しましたが、分科会終了の際には雨も上がりほっとしました。三日目の中田喜直先生のピアノに合わせての大合唱は、参加者全員の心の琴線をゆすり、幸せな気分ひたる事ができました。

「神奈川の大会に参加してよかった」と感じていただく



ために温かいおもてなしを、の合言葉で頑張っていた。たいの係の皆様のお蔭で大会は成功し、感謝の手紙も沢山届きました。皆様へのご努力を再確認すると共に、負担金や協賛金のご協力をいただいた行政や法人の方々をはじめ諸氏、とりわけ汗を流していただいた方々に感謝申し上げます。



勇壮な北条太鼓で始まった開会式

第41回 全国保育研究大会

神奈川大会

全国の保育関係者二千人が集う

児童福祉法制定五十周年を記念した「第四十一回国保育研究大会」(全国社会福祉協議会・全国保育協議会など主催)が十一月十九〜二十一日までの三日間、小田原アリーナでの開会式を始め、箱根の各会場で開かれました。

「この子らに未来(あす)

を託して」―二十一世紀の保育のあり方を考える―をテーマに、今日の保育問題について相互理解を深め、二十一世紀を担う子ども達の育成と保育所のあり方を考えようという趣旨により、全国各地から、二千二百余名の保育所、保育行政関係者らが参加されました。

第一日目

―開会式・基調講演―

小田原市中曽根の総合文化体育館「小田原アリーナ」を会場として、勇壮な北条太鼓のオープニングに続き、開会式では主催者側のあいさつと、保育に功績のあった方々の表彰式が行われました。続



会と特別分科会の十分科会に別れ、六会場に分教して行われました。特に、湯本富士屋ホテルでの第一分科会「新しい時代の保育所をめざして」―地域の保育ニーズへの対応と子育て支援活動の推進を考える―には、約四百人も参加者が一同に会し、新しい取り組みの実践報告を基に、熱気あふれる討論を展開しました。

第三日目

―全体会・閉会式―

最終日は湯本富士屋ホテルに於いて行われた、作曲家の中田喜直氏(フェリス女学院名誉教授)による記念講演「子ども達に伝えたい日本の歌と心」では、温かいトークと先生のピアノ伴奏による懐かしい童謡の合唱により会場もなごみ、三日間の疲れが癒されたひとときでした。

第二日目
―分科会―
会場を箱根に移し、九分科閉会しました。

大会を締めくくる大会宣言が行われた



各分科会では、熱気あふれる討議が展開された



全国から続々と参加者が到着



第41回 全国保育研究大会を振り返って



各会場で大活躍だったスタッフの皆さん



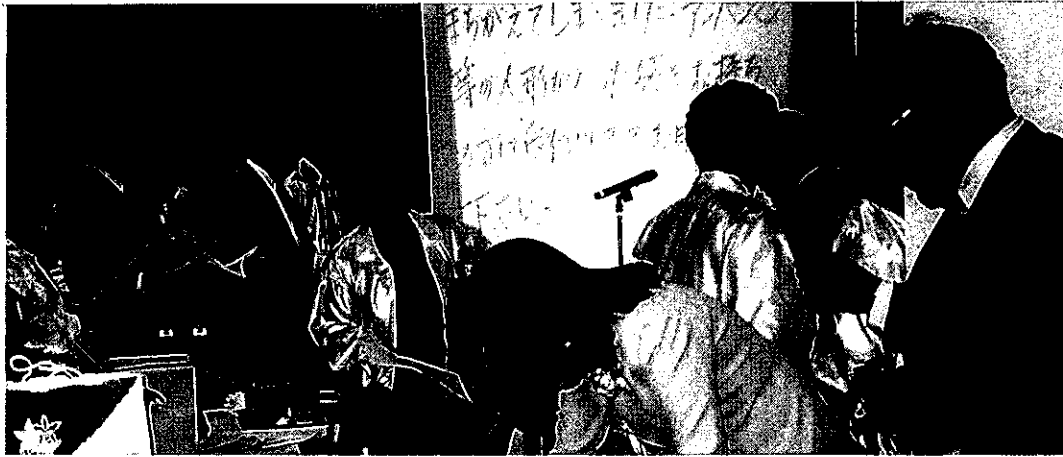
講演に聞き入る参加者たち



みんなの
心はひとつ!!



スタッフの皆さん
お疲れさまでした。





準備はOK!!ほっとひと息



全国社会福祉協議会・全
 神奈川県社会福祉協議会・全

休育研究



本部ほか、各会場では直前まで
 綿密な打ち合わせが行われた

さあ出陣!
 ミーティングはしっかりと



会長表彰を受賞して

横須賀市 鴨居保育園園長 眞子 典子

全国保育研究大会開催県で

全社協会会長表彰の栄誉に預り、壇上でこの喜びを味わえる幸せを噛みしめ、今までの思いが頭の中を駆けめぐって、育てに不安を感じる親もなく人とのつきあいにもゆとりが



あったような気がします。

経済が成長するに従い、世の中に変化が見えてきました。今、社会も経済情勢も大きく変革し、少子化、女性の社会進出等、子どもや家庭を取り巻く環境も変わり、保育ニーズも多様化して、地域福祉の拠点としての保育園に変わってきました。核家族化や地域との連携も希薄になり、思いやりややさしい気持ちを持つなど、人として持ち合わせている感情が薄れてきたのも淋しいことです。

しかし、子どもの笑顔、遊んでいる時のいきいきしている声、その時々のかわいい仕草、熱中している時の真剣な顔は昔と変わりません。

そんな子ども達と過ごした三十余年間、子ども達からたくさんのお話を学び、喜び、思い出をもらいました。大切な宝物である「子ども達の幸せは何か」を考えながら、残り少ない仕事に悔いを残さないよう微力を注げられればと思います。

大会エピソード

同級生見つけた

子どもの家保育園 (座間市) 三浦 律子

分科会で記録のお手伝いをした時の話です。

参加者名簿の中に、中学時

代の同級生の名前を見つけたのですが、忙しく声がかかられませんでした。するとその日の夜、実家にその方から電話があり、私に気が付いていながら声が掛けられず申し訳なかったとのこと。お互いさまでした。

大会宣言

私たち認可保育所関係者は、全国各地から二二〇〇余名の参加を得てここ神奈川の地に参集し、「この子らに未来(あす)を託して二十一世紀の保育のあり方を考える」を主題にした第四十一回全国保育研究大会において、これからの保育所のあるべき方向について真剣な研究討議を行った。

おりしも本年六月には、二十一世紀の児童福祉の構築をめざし、児童福祉法の一部改正が五十年ぶりで行われ、来年四月に施行されることになっている。私たち保育に携わるものにとっ

てたいへん大きな転換期を迎えようとしている。 今回の改正の主旨は、近年の社会情勢の変化と深刻化する少子化への対応や、女性の社会進出の一般化による就労と育児の両立支援など、安心して子どもを生み育てることのできる環境整備の必要性を背景に、保育所制度の仕組みが改められた。

この改革によって保育所は保護者が保育所を選択する仕組みに改められ、また、保育所が地域の住民に対しても保育に関する運営の状況や保育内容の情報提供、子育てに関する相談・助言を行うよう努めなければならないことが児童福祉法に明記された。

地域における保育所への期待は従前にも増して大きいものと云わなければならない。

そのため、私たち認可保育所関係者はこの児童福祉法の改正を契機に、住民に最も身近な児童福祉施設としての期待に応え、地域の子育てセンターとしての機能と役割を強く認識し、利用しやすい保育所をめざし、保育内容や保育の質を高めつつ、未来(あす)を担う子どもたちの幸せを願って、より一層の研鑽と邁進を誓うものである。

右、宣言する。

平成九年十一月二十一日

第四十一回全国保育研究大会

編集後記

晩秋の富士山に迎えられて開催された「全国保育研究大会」が終わって二カ月余り、参加者の皆さんには快い満足感、スタッフの皆さんには安堵と思いついで大きく膨らんだ白いスタツフジャンパーが手に残ったことと思います。

小田原・箱根での三日間、皆さんの熱気と温かいふれあいの思いをまた呼び起こしていただき、「ガンバッタネ」「お疲れ様でした」ともう一度声をかけたいたくて今号は写真も多く掲載し、「全国大会特集号」として組ませていただきます。

